

新型コロナワクチン副作用の調査結果が明らかに「ワクチン打った後に心臓が溶ける」事例も

2024/03/01 メディカルドック



ワクチン問題研究会が厚生労働省で記者会見をおこない、世界全体における新型コロナウイルスのワクチン接種後の副作用についての調査結果を発表しました。この内容について甲斐沼医師に伺いました

監修医師：甲斐沼 孟（上場企業産業医）
大阪市立大学（現・大阪公立大学）医学部医学科卒業。大阪急性期・総合医療センター外科後期臨床研修医、大阪労災病院心臓血管外科後期臨床研修医、国立病院機構大阪医療セ

ンター心臓血管外科医員、大阪大学医学部附属病院心臓血管外科非常勤医師、大手前病院救急科医長。上場企業産業医

★ワクチン問題研究会が発表した調査結果とは？

ワクチン問題研究会は「設立後 6 カ月の成果報告～ワクチン副作用被害の拡大とその内容の事実確認～」というテーマで、厚生労働省で記者会見をおこないました。ワクチン問題研究会によると、アメリカ国立医学図書館が提供する医学関連分野の文献データベースに掲載された副作用報告件数は 2021 年 12 月～2023 年 11 月の間で 3071 件にのぼり、全ての臓器で疾患していたとのこと。また、血小板減少症、心筋炎、ギラン・バレー症候群、アナフィラキシーなど症状も多様でした。

ワクチン問題研究会の代表を務める京都大学名誉教授の福島医師は、「28 歳の男性は心臓が溶けており、これまでの医師経験の中で見たことがない症状が新型コロナウイルスワクチンによって引き起こされている」と会見で述べました。

日本のワクチン被害認定件数は 1977～2021 年までに 3522 件あり、死亡認定は 151 件、後遺症認定は 473 件です。一方で、1 月 31 日現在の新型コロナウイルスのワクチン接種による被害認定数は 6088 件で、死亡の認定件数は 453 件、後遺症認定は 39 人となっています。福島代表らは会見で「患者、家族に成果物を届けることを目標に、ワクチン接種後症候群について、誰も否定できない検査法を開発し、副作用情報を明確に示してメカニズムを分子レベルで解剖していく」としています。

★新型コロナウイルスのワクチン接種による健康被害の救済制度とは？

ワクチン接種による健康被害の救済制度は、1976 年にできた制度です。厚生労働省に書類が届いてから、都道府県に審査結果が届くまで 4 カ月～1 年ほどかかり、認定率は例年 8 割程度です。コロナ前の 2014～2018 年度は全国で年 100 件前後だったそうですが、新型コロナワクチン接種後の健康被害の救済申請を受理した件数は、2024 年 1 月 31 日までに 1 万 135 件にまで増えていることがわかっています。このうち、7178 件の審査が終わり、そのうち 6088 件が被害認定され、1090 件が被害認定されませんでした。一方で、審査が終わっていないものは 2957 件あります。

★今回の調査結果への受け止めは？

新型コロナウイルスの世界的流行は、これまで国内外で人々の健康・生命のみならず、社会経済活動にも甚大な損害を与えました。新たな変異株や新たな感染症の発生も懸念されている状況を踏まえて、これまでの医療体制や予防策を改めて検証して、より科学的かつ現実的な医療提供体制を提言することが、公衆衛生の発展や持続可能な社会を構築していくためには必要です。

ワクチン問題研究会からは、新型コロナウイルスのワクチン接種による健康被害者の速やかな救済に関連して、ワクチン接種後の死亡者や健康被害の全例調査などの要望を厚生労働省に向けて出しました。医師などがおこなう副反応疑いの報告に加えて、製造販売業者からの報告、そして海外規制当局などの情報も総合的に勘案して、引き続きワクチンの安全性を評価し、必要に応じて安全対策を講じる必要があると感じます。また、将来的には審査の迅速化を目的に、さらなる審査会の開催頻度の増加、審査会の増設、そして事務局機能の増強などの取り組みが期待されます。

★まとめ

ワクチン問題研究会が2024年1月11日に厚生労働省で記者会見をおこない、世界全体における新型コロナウイルスのワクチン接種後の副作用についての調査結果を発表しました。今後もこうしたワクチン接種後の副作用に関する発表は注目を集めそうです。